

那覇市小禄金城 俗称〔上の毛〕の植物

日 越 国 昭[★]

新 城 和 治^{★★}

はじめに

調査地は、那覇市小禄の元米軍基地が解放され、区画整理が開始されている範囲内にあり、国道331号線に近く字赤嶺と字安次嶺との境界にある海拔50.2mを最高所とする丘で俗称上の毛（ウイヌモウ）と呼ばれている。

この丘は、北西から南東に伸びる新生代第三紀の泥板岩および砂岩を基盤とし、最高所付近に第四紀の琉球石灰岩が痕跡的に残存する。米軍基地時には、最高所付近にタンクが設置され丘全体は緑地として残されていた地域である。

解放後は、尾根部のやや平坦な部分が耕作された形跡があり、また、ほぼ同じ場所に新たにより大きな水タンクが設置されている。

植生は、部分的に常緑広葉樹林も見られるが、ギンネム林が広い面積を占め、モクマオウ林なども有り人為的攪乱が強かったことを示している。

この地域周辺は、小禄金城土地区画整理事業の一環で盛んに工事が進行中であり、調査中にも隣接地で新設の金城小学校建設工事が完成まぢかであった。

区画整理事業によって、この丘も水タンク周辺をわずかに残して土地を削り平坦にし、住宅地にする予定になっている。

この調査は、那覇市教育委員会の依頼により、昭和61年3月20日および31日に実施したもので、植生図、植物社会学的調査それに植物相の調査を実施した。

これを報告するにあたり調査の機会を与えて下さった那覇市教育委員会、および調査に同行し協力していただいた同教育委員会の奥土晴夫氏に対し深甚なる謝意を表する。

1. 調査方法

植生図は現地踏査と空中写真により、相観別に図化した。

植物社会学的調査は、調査地域内で識別された植生のうち可能な限り均質な林分を選び、最小面積以上の調査区を設置した。調査区内では、階層構造の分化に従って高木層、

(★ ひごし くにあき 沖縄県立博物館学芸員)

(★★ しんじょう かずはる 琉球大学教育学部助教授)

亜高木層、低木層、草本層を識別した。さらに識別した各階層ごとに出現するそれぞれの種類ごとに以下に示す被度、群度を調査した。また、調査区の面積に対する各階層に出現する植物の葉群の被覆率、すなわち各階層の植被率を測定し、各調査区の海拔高度、傾斜角度、傾斜方位、風当たり、日当たり、基盤岩、土壤の乾湿なども記録した。

被度と群度についてはBraun-Blanquet(1964)の全推定法に基づいて以下の基準で行った。

被度：調査区内の植物の種ごとの占有率を6段階表示したもの。

5：調査面積の75%～100% (3/4～1) を占めている。

4：“ 50%～75% (1/2～3/4) を占めている。

3：“ 25%～50% (1/4～1/2) を占めている。

2：“ 5%～25% (1/20～1/4) を占めている。

1：“ 1%～5% (1/100～1/20) を占めている。

+：“ 1% (1/100) 以下

群度：個々の植物がどのように生育しているかをあらわす測度で次のように区分している。

5：調査区内にカーペット状に生育しているもの。

4：カーペット状に穴があいているような状態または大きなまだら状に生育しているもの。

3：まだら状、群状に生育しているもの。

2：小群状に生育しているもの。

1：単独に生えているもの。

植物相については、調査地域内を踏査し出現する種を記録するとともに、疑問種については持ち帰り同定した。

2. 調査結果

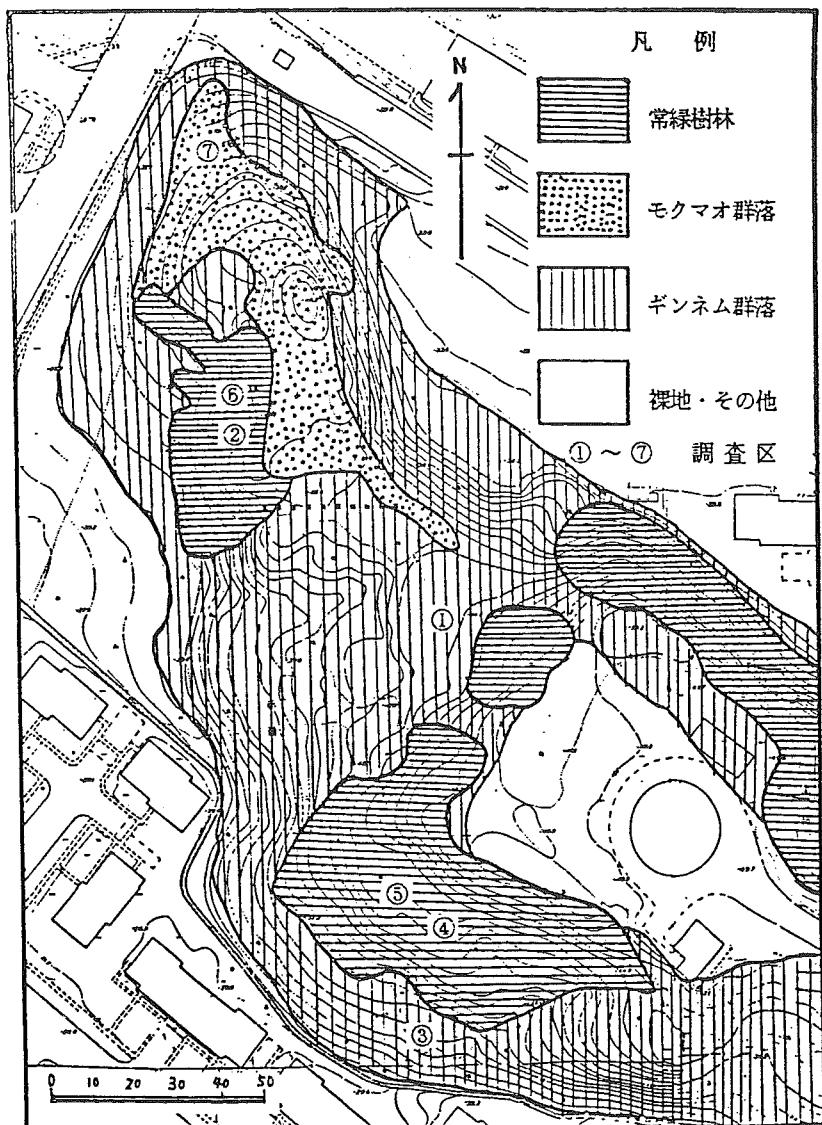
(1) 植生図

植生図は、純粹の科学的研究やある地域の開発などの立地判断、それに自然の保護・管理・復元など、多岐にわたるあらゆる計画の基礎図として作成される。

今回の調査で、地域全体の植生の把握および今後調査地域がほとんど開発されることから、記録保存的な意味で、相観的にとらえた植生図を作成した。

植生図の結果を見ると、特に地形・人為の関わりの強弱の度合いが見てとれる。尾根部は、無植生、モクマオウ群落、ギンネム群落それに放棄畠、急な斜面部は常緑樹林、そして人が侵入し攪乱しやすい斜面下部はギンネム群落が発達している。面積的には、ギンネ

那霸市小禄金城の俗称「上の毛」植生図



ム群落が広い範囲を占め、モクマオウ群落が一番狭い。

(2) ギンネム群落

ギンネムは熱帯アメリカ原産のマメ科植物であるが、現在亜熱帯から熱帯の各地にひろがっている。明治43年国頭農学校が綠肥としてスリランカより導入したが、現在は野生状態となって各地に群落が出来ている（以上 1982：天野鉄夫）。

本地域では、特に人為の攪乱の強い斜面の部分に発達している。調査地番号①の地域

は、尾根部に位置し常緑広葉樹林に隣接している。

調査地番号①では樹高が9mと高く、また、各階層の植被率・出現種数も多い。高木層はギンネムが特に優占し、ツル性のタイワンクズも出現する。亜高木層もギンネム、タイワンクズが出現する。低木層は前2種の他にクワノハエノキ、ネズミモチ、ホルトノキ、タブノキ、ヤブニッケイ、リュウキュウクロウメモドキ、アカギ、マサキ、シマグラ、オオムラサキシキブなどの木本とノアサガオ、ヘクソカズラ、タイワンアキグミなどのツル植物が出現する。草本層は27種と多数出現し、前記の木本の種以外にヒラミレモン、トペラ、ナガミボチョウジ、クスノハガシワ、オキナワシャリンバイ、イヌビワ、オオシマコパンノキなどが出現する。

調査区番号③は調査地の南東に位置し、胸高直径も小さく、全階層でわずか7種が出現し、植被率も全体的に低い。この林分は一番人為的攪乱が強く、成林してから期間が短いと思われる。

(3) モクマオウ群落

本群落は調査地域の北西側の尾根筋に発達している。モクマオウはオーストラリア原産で、沖縄には明治41年国頭農学校が台湾より種子を導入して植栽したのがはじまりである（以上 1982：天野鉄夫）。この群落は、高木林ではあるが一般的に他の高木の群落と比較して出現種数、被度、群度が低くなるのが特徴である。

高木層は、樹高14mで高く他の群落より目だって高い。31種出現し、木本はわずか7種と少なく、他は畠地や路傍の雑草に類する種が出現する。

(4) 常緑広葉樹林

全体的に人為的攪乱が強い地域であるが、その中にあって部分的に自然林が回復しつつある。この自然林は、沖縄本島の中南部に広くみられるリュウキュウガキーナガミボチョウジ群団に属する森林であるが、この那覇市では年々減少してきている。

本調査地域内ではおもに南側の斜面上部に発達している。本樹林の中で均質な林分の部分を選び、20m×20mの4つの調査区を設け調査し、4調査区内で62種が出現した。

調査区番号②は、調査地域の北西部に位置しやや凹地になった地域である。調査区内に28種出現し、高木層は8種出現し、樹高12mと高く、植被率も90%に達している。その中でアコウが被度・群度とも4で最も優占し、クロヨナ、リュウキュウマツ、ハゼノキその他が出現する。亜高木層は、9種出現し、植被率40%、低木層は20種・40%であり発達していない。草本層は34種出現し、植被率は60%でホシダやクワズイモが多い。

調査区番号④は、調査地域の水タンクの南下方斜面に位置しているが、やや平坦で石垣

などが有り、那覇市教育委員会の話では当間ノロヤドの跡ではないかとのことである。調査区内で25種出現する。高木層は8種出現し、樹高11.5m、植被率80%で、ハマイヌビワが優占し、アカギ、カキバカンコノキ、アコウなどが多い。亜高木層は5種出現し、それぞれの被度も+で植被率も低く、発達してない。低木層は21種出現し、植被率50%でネズミモチ、ナガミボチョウジその他が出現する。草本層は26種出現し、植被率80%で発達している。クワズイモが被度・群度とも4で優占し、ホシダ・ナガミボチョウジその他が出現する。

調査番号⑤は④の西側に隣接する地域で、④と同様に石垣など人の生活の跡が残っている部分である。調査区内で26種出現する。高木層は、樹高9.5m、植被率70%，出現種数が9種で、シマグワ、ガジュマル、アカギその他が出現する。亜高木層は、出現種数8種で植被率20%とあまり発達していない。低木層は植被率50%で20種出現し、ナガミボチョウジ、フカノキなどが目立つ種であるが、クワズイモ、ゲットウなどの草本がこの層までできているのが特徴である。草本層は植被率60%で26種出現し、クワズイモ、ホンダなどが優占し、他の種はあまり目立たない。

調査区番号⑥は②の北側に位置し、基盤岩が小碌砂岩層で地形は凹凸が激しく、調査区内に防空壕が開口している。高木層は出現種数が6種であるが、植被率80%でハゼノキ、ハマイヌビワ、クロヨナなどが多い。亜高木層は出現種数が9種であるが、各種の被度が小さく植被率も20%と低い。低木層は、出現種数が27種と多いけれどもイヌビワがやや目立つ程度である。草本層は30種出現し、植被率60%でクワズイモ、ホシダが優占する。

おわりに

本調査地域一帯は、土地区画整理事業によって近ぢか現況が改変され、住宅地となる予定である。

那覇市は、全体的に公園緑地の面積が小さく、今後増やす必要があると思われる。当該地に隣接して小学校・中学校・高等学校が新たに設置される。森林は台風、地震、火災などの天災に強く周囲もそれらのものから守る、大気を浄化する、防音効果がある、情操教育の場となる、その他の公益的機能がある。よって、本地域の森林を残すことによって、近くの学校の野外の自然教育の場として、あるいは住宅地の環境維持に活用することができる。また、潜在自然植生を知る上でも残すのが望ましいといえる。

もし、残すのであれば本地域の潜在自然植生に最も近く、また、前述の公益的機能が最も大きい常緑樹林をそのまま残し、それを核として裸地・モクマオウ群落・ギンネム群落の部分のモクマオウやギンネムを伐採し、今回の調査結果にある常緑樹林の特に高木層の構成種を植栽し、自然の森をつくっていくべきであると考える。

参考文献

- 佐々木好之編 1973 植物社会学. 共立出版. 東京.
- 初島住彦 1975 琉球植物誌. 追加. 訂正版. 沖縄生物教育研究会. 沖縄.
- 初島住彦・天野鉄夫 1977 琉球植物目録. でいご出版社. 沖縄.
- 島袋敬一 1981 琉球シダ目録. ひるぎ社. 沖縄.
- 新納義馬他 1985 万座毛石灰岩植物群落調査報告. 恩納村教育委員会. 沖縄.

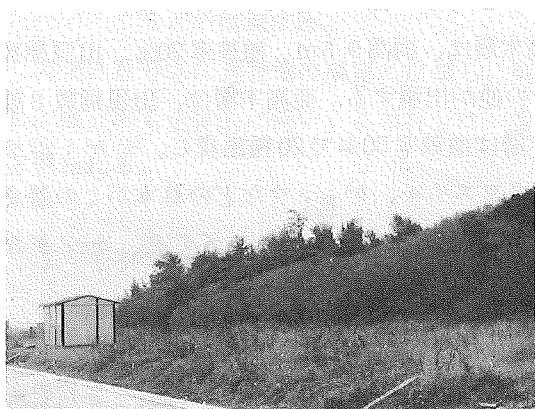


写真1. 調査地南から北東部を望む。

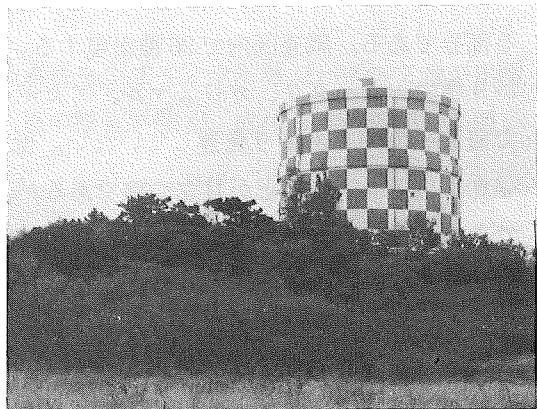


写真2. 水タンク周辺の景観
手前はギンネム群落。



写真3. 北東部の景観
突出しているのがモクマオウ群落。



写真4. 北東部の常緑樹林。

(2) ギンネム群落

調査地番号	①	③	アカギ	+
調査年月日	'86. 3 / 20		マサキ	+
調査査地	小禄		タイワンアキグミ	+
調査面積 (m ²)	100	100	シマグワ	+
傾斜方位	0	sw 10°	オオムラサキシキブ	+
傾斜角度 (°)	0	10	草本層	
高木層 高さ (m)	9	7	タイワンアキグミ	1•2 +
" 植被率 (%)	70	60	イヌホウズキ	+•2 +•2
亜高木層 高さ (m)	5	4	ギンネム	+•2 +•2
" 植被率 (%)	20	10	タイワンクズ	+•2 +
低木層 高さ (m)	2	1.5	ヒラミレモン	+
" 植被率 (%)	30	1	ハルノノゲシ	+
草本層 高さ (m)	0.8	0.5	ムラサキカタバミ	2•3
" 植被率 (%)	30	1	トベラ	+•2
出現種数	30	6	タブノキ	+•2
高木層			アカギ	+•2
ギンネム	4•4	4•4	ナガミボチョウジ	+•2
タイワンクズ	1•2	+	シマグワ	+•2
亜高木層			クスノハガシワ	+•2
ギンネム	2•3	2•3	ノアサガオ	+•2
タイワンクズ	+•2		ツルソバ	+•2
低木層			オキナワシャリンバイ	+•2
ギンネム	2•3	+•2	クワズイモ	+
クワノハエノキ	1•2		マサキ	+
タイワンクズ	+•2		クワノハエノキ	+
ネズミモチ	+•2		ヘクソカズラ	+
ホルトノキ	+•2		ネズミモチ	+
タブノキ	+•2		イヌビワ	+
ノアサガオ	+		オオシマコバンノキ	+
ゲットウ	+		オニタビラコ	+
ヤブニッケイ	+		ハナイバナ	+
リュウキュウクロウメモドキ	+		シナガワハギ	+
ヘクソカズラ	+		タチアワユキセンダングサ	+

(3) モクマオウ群落

調査地番号	⑦	傾斜方位	N
調査年月日	'86. 3 / 20	傾斜角度 (°)	10
調査査地	小禄	高木層 高さ (m)	14
調査面積 (m ²)	400	" 植被率 (%)	60

亞高木層	高さ(m)	6	エダウチヂミザサ	+•2
"	植被率(%)	10	タイワソコスミレ	+•2
低木層	高さ(m)	2.5	ムラサキカタバミ	+•2
"	植被率(%)	15	ムラサキイノコヅチ	+•2
草本層	高さ(m)	0.5	コゴメスゲ	+•2
"	植被率(%)	70	アオスゲ	+•2
出現種数		31	シマグワ	+•2
<hr/>				
高木層			カタバミ	+•2
モクマオウ		4•4	アオイゴケ	+•2
亞高木層			チガヤ	+•2
ギンネム		1•2	ジシバリ	+•2
ヘクソカズラ		+•2	アキノノゲシ	+•2
低木層			テッポウユリ	+•2
ギンネム		2•3	ヘクソカズラ	+•2
ヘクソカズラ		+•2	リュウキュウボタンズル	+•2
シマグワ		+	グラジオラス	+•2
タイワソウオクサギ		+	ススキ	+•2
草本層			ホシダ	+
タチアワユキセンダングサ		4•4	イスビワ	+
ヤエムグラ		1•2	ハルノノゲシ	+
ヤブジラミ		1•2	カキバカンコノキ	+
シマアザミ		1•2	ツボクサ	+
ギンネム		+•2	ルリハコベ	+
			カンコノキ	+

(4) 常録広葉樹林

調査地番号	(2)	(4)	(5)	(6)	高木層	
調査年月日	1986. 3. 20				シマグワ	1•2
調査地	那覇市、小禄、金城				カキバカンコノキ	2•2
調査面積(m ²)	400	400	400	400	ガジュマル	1•1
傾斜方位	sw40°	0	0	sw40°	アコウ	4•4
傾斜角度(°)	20	0	0	15	ハマイヌビワ	3•3
高木層 高さ(m)	12.0	11.5	9.5	90	クロヨナ	2•2
" 植被率(%)	90	80	70	80	ハゼノキ	2•1
亜高木層 高さ(m)	6.0	5.5	6.5	5.5	アカギ	2•1
" 植被率(%)	40	5	20	20	タイワソウオクサギ	1•1
低木層 高さ(m)	3.0	3.0	2.5	3.0	ヤブニッケイ	1•1
" 植被率(%)	40	50	50	50	クワノハエノキ	1•1
草本層 高さ(m)	1.0	1.0	1.0	0.8	リュウキュウマツ	2•2
" 植被率(%)	60	80	60	60	タイワソウアキグミ	1•2
出現種数	45	32	38	46	ギンネム	1•2
					タブノキ	1•1

クスノハガシワ		1・1	サンゴジュ	+	+	+
亜高木層			クワズイモ	1・2	1・2	
シマグワ	+	1・2	リュウキュウチク		+・2	+・2
ホルトノキ	+	1・2	アカテツ		+	+・2
アカギ	2・2	+	ゲッキツ	+	+	
フカノキ	1・2	+	タイワンアキグミ	+	+	
ネズミモチ	1・2	+	ハマイヌビワ	+	+	
サンゴジュ		+・2	ビロウ		1・2	
オオムラサキシキブ		+	クチナシ	+・2		+
リュウキュウボタンズル	1・2		リュウキュウクロウメモドキ	+・2		
ギンネム		1・2	オオバギ	+		
リュウキュウチク		1・2	リュウガン	+		
アカテツ	1・1		ギョクシンカ		+	
クチナシ	+・2		カキバカソコノキ		+	
カニクサ	+		ハゼノキ		+	
イヌビワ	+		クロヨナ		+	
ハマセンナ	+		フクマンギ		+	
タブノキ	+		ソテツ		+	
ガジュマル	+		シマヤマヒハツ		+	
オオシマコバンノキ		+・2	オオシマコバンノキ		+	
ハマイヌビワ		+・2	リュウキュウボタンズル		+	
クスノハガシワ		+	草本層			
タイワンウォクサギ		+	クワズイモ	2・2	4・4	3・3
リュウキュウクロウメモドキ		+	ホシダ	3・3	3・3	3・3
フクマンギ		+	ナガミボチョウジ	+・2	2・3	1・2
低木層			ヤブラン	+・2	+・2	+・2
ナガミボチョウジ	1・2	2・3	トベラ	+・2	+・2	+・2
ネズミモチ	+・2	2・3	カニクナ	+・2	+・2	+・2
イヌビワ	1・2	+	イヌビワ	+・2	+・2	+・2
クワノハエノキ	1・2	1・2	ネズミモチ	+・2	+	+・2
ホルトノキ	1・2	1・2	タイワンアキグミ	+	+・2	+・2
カニクサ	1・2	1・2	タブノキ	+	+・2	+・2
アカギ	1・2	1・2	サンゴジュ	+	+	+・2
ゲットウ	1・2	+	ヘクソカズラ	+	+・2	+
マサキ	+・2	+	イノモトソウ	1・2	+・2	+・2
クスノハガシワ	+	+	フカノキ	+	1・2	+
フカノキ	+・2	1・2	ホルトノキ	+・2	+・2	+
トベラ		1・2	ヤブニッケイ	+・2	+	+
シマグワ		+	マサキ	+・2	+	+
オオムラサキシキブ	+・2		クスノハガシワ	+	+	+
タブノキ	+	+・2	アカギ	+	+	+
ヤブニッケイ	+	+	オニヤブソテツ	1・2	+	

ムラサキカタバミ	+•2		+•2	カラムシ		+•2
クワノハエノキ		+•2	+•2	ヒラミレモン	+	
クロヨナ	+•2		+	オオムラサキシキブ	+	
カキバカンコノキ	+	+		フクマンギ	+	
コゴメスグ	+		+	ケホシダ	+	
ハゼノキ	+		+	シマグワ	+	
オオシマコバンノキ	+		+	オオバギ	+	
ノアサガオ	+		+	ツルモウリンカ	+	
シマヤマヒハツ		+	+	タシロスグ	+	
ゲッキツ	+		+	セイロンマンリョウ	+	
ススキ	+		+	リュウキュウボタンズル	+	
オニタビラコ	+		+	オオイタビ	+	
ギンネム		+	+	ビロウ	+	
ゲットウ	1•2			サルカケミカン	+	
クチナシ	+•2			エダウチヂミザサ	+	
アオスグ	+•2			リュウキュウクロウメモドキ	+	

那霸市小禄金城
俗称「上の毛」の植物目録

Pteridophyta	シダ植物
Schizaeaceae	カニクサ科
Lygodium japonicum (Thunb.) Swartz	カニクサ
Oleandraceae	ツルシダ科
Nephrolepis auriculata (L.) Trimen	タマシダ
Nephrolepis auriculata x Nephrolepis biserrata	ヒメホウビカンジュ
Pteridaceae	イノモトソウ科
Pteris ensiformis Burmann	ホコンダ
Pteris multifida Poiret	イノモトソウ
Pteris ryukyuensis Tagawa	リュウキュウイノモトソウ
Dryopteridaceae	オシダ科
Cyrtomium falcatum (L. f.) Presl	オニヤブソテツ
Thelypteridaceae	ヒメシダ科
Thelypteris acuminata (Hourtt.) Morton	ホシダ
Thelypteris parasitica (L.) Fosberg	ケホシダ
Spermatophyta	種子植物
Gymnospermae	裸子植物
Cycadaceae	ソテツ科
Cycas revoluta Thunb.	ソテツ
Podocarpaceae	マキ科
Podocarpus macrophylla (Thunb.) D.Don	イヌマキ
Pinaceae	マツ科
Pinus luchuensis Mayr	リュウキュウマツ
Angiospermae	被子植物
Dicotyledoneae	双子葉植物
Archichlamydeae	離弁花類
Casuarinaceae	モクマオウ科
Casuarina equisetifolia J. R. & G. Forst.	モクマオウ
Ulmaceae	ニレ科
Celtis boninensis Koidz.	クワノハエノキ

	Moraceae	クワ科
Ficus erecta Thunb.		イヌビワ
Ficus microcarpa L. f.		ガジュマル
Ficus pumila L.		オオイタビ
Ficus superba (Miq.) var. Japonica Miq.		アコウ
Ficus virgata Reinw. ex Blume		ハマイヌビワ
Morus australis Poir.		シマグワ
	Urticaceae	イラクサ科
Boehmeria nivea (L.) Gaudich.		
f. viridula (Yamamoto) Hatusima		ノカラムシ
	Polygonaceae	タデ科
Polygonum chinense L.		ツルソバ
	Amaranthaceae	ヒユ科
Achyranthes aspera L. var. rubro-fusca Hook. f.		ムラサキイノコヅチ
	Ranunculaceae	キンポウゲ科
Clematis grata Wall. var. ryukyuensis Tamura		リュウキュウボタンヅル
	Lauraceae	クスノキ科
Cinnamomum japonicum Sieb.		ヤブニッケイ
Persea thunbergii (s. et z.) Kostermans		タブノキ
	Pittosporaceae	トベラ科
Pittosporum tobira (Thunb.) Aiton		トベラ
	Rosaceae	バラ科
Rhaphiolepis indica (L.) Lindl. var. insularis Hatusima		オキナワシャリンバイ
	Leguminosae	マメ科
Erythrina variegata L. var. orientalis (L.) Merr.		デイゴ
Leucaena leucocephala (Lamk.) de Wit		ギンネム
Melilotus suaveolens Ledeb.		シナガワハギ
Ormocarpum cochinchinense (Lour.) Merr.		ハマセンナ
Pongamia pinnata (L.) Pierre		クロヨナ
Pueraria montana (Lour.) Merr.		タイワンクズ
	Oxalidaceae	カタバミ科
Oxalis corniculata L.		カタバミ
Oxalis corymbosa DC.		ムラサキカタバミ

	Rutaceae	ミカン科
Citrus depressa hayata		ヒラミレモン
Murraya paniculata (L.) Jack		ゲッキツ
Toddalia asiatica (L.) Lam.		サルカケミカン
	Euphorbiaceae	トウダイグサ科
Antidesma pentandrum (Blanco) Merr.		シマヤマヒハツ
Bischifia javanica Blume		アカギ
Breynia officinalis Hemsl.		オオシマコバンノキ
Glochidion obovatum Sieb. & Zucc.		カシコノキ
Glochidion zeylanicum (Gaertn.) A.Juss.		カキバカンコノキ
Macaranga tanarius (L.) Muell. -Arg.		オオバギ
Mallotus philippensis (Lam.) Muell. -Arg.		クスノハガシワ
	Anacardiaceae	ウルシ科
Rhus succedanea L.		ハゼノキ
	Celastraceae	ニシキギ科
Euonymus japonicus Thunb.		マサキ
	Sapindaceae	ムクロジ科
Euphoria longan Steud.		リュウガン
	Rhamnaceae	クロウメモドキ科
Rhamnus liukiuensis (Wils.) Koidz.		リュウキュウクロウメモドキ
	Vitaceae	ブドウ科
Ampelopsis brevipedunculata Trautv.		
var. hancei (Plach.) Rehd.		テリハノブドウ
	Elaeocarpaceae	ホルトノキ科
Elaeocarpus sylvestris (Lour.) Poir.		ホルトノキ
	Malvaceae	アオイ科
Hibiscus tiliaceus L.		オオハマボウ
	Theaceae	ツバキ科
Eurya emarginata (Thunb.) Makino		ハマヒサカキ
	Violaceae	スミレ科
Viola philippica Cav.		タイワンコスミレ
	Elaeagnaceae	グミ科
Elaeagnus thunbergii Serv.		タイワンアキグミ

	Myrtaceae	フトモモ科
Psidium guajava L.		バンジロウ
	Araliaceae	ウコギ科
Schefflera octophylla (Lour.) Harms		フカノキ
	Umbelliferae	セリ科
Centella asiatica (L.) Urban		ツボクサ
Torilis japonica (Houtt.) DC.		ヤブジラミ
	Metachlamydeae	合弁花類
	Myrsinaceae	ヤブコウジ科
Ardisia sieboldii Miq.		モクタチバナ
Ardisia elliptica Thunb.		セイロンマンリョウ
	Primulaceae	サクラソウ科
Anagallis arvensis L. f. caerulea Baumg.		ルリハコベ
	Sapotaceae	アカテツ科
Planchonella obovata (R. Br.) Pierre		アカテツ
	Oleaceae	モクセイ科
Ligustrum japonicum Thunb.		ネズミモチ
	Asclepiadaceae	ガガイモ科
Tylophora tanakae Maxim.		ツルモウリンカ
	Convolvulaceae	ヒルガオ科
Dichondra micrantha Urban		アオイゴケ
Ipomoea acuminata (Vahl) Roem. et Schult.		ノアサガオ
	Boraginaceae	ムラサキ科
Bothriospermum tenellum (Hornem.) Fischer et Meyer		ハナイバナ
Ehretia microphylla Lamk.		フクマンギ
	Verbenaceae	クマツヅラ科
Callicarpa japonica Thunb. var. luxurians Rehd.		オオムラサキシキブ
Premna corymbosa (Burm. f.) Rottb. et Willd.		
var. obtusifolia (R. Br.) Fletcher		タイワンウオクサギ
	Solanaceae	ナス科
Solanum nigrum L.		イヌホウズキ
	Rubiaceae	アカネ科
Galium spurium L. var. echinospermum (Wallr.) Hayek		ヤエムグラ

<i>Gardenia jasminoides</i> Ellis	クチナシ
<i>Paederia scandens</i> (Lour.) Merr.	ヘクソカズラ
<i>Psychotria manillensis</i> Bartl. ex DC.	ナガミボチヨウジ
<i>Tarennia gyokushinkwa</i> Ohwi	ギョクシンカ
Caprifoliaceae	スイカズラ科
<i>Viburnum odoratissimum</i> Spr.	
var. <i>awabucki</i> (Koch) K. Koch	サンゴジュ
Compositae	キク科
<i>Bidens pilosa</i> L. var. <i>radiata</i> Sherff	タチアワユキセンダングサ
<i>Cirsium brevicaule</i> A. Gray	シマアザミ
<i>Erigeron sumatrensis</i> Retz.	オオアレチノギク
<i>Farfugium japonicum</i> (L.) Kitamura	ツワブキ
<i>Ixeris debilis</i> (Thunb.) A. Gray	ジシバリ
<i>Lactuca indica</i> L.	アキノノゲシ
<i>Sonchus asper</i> (L.) Hill.	オニノゲシ
<i>Sonchus oleraceus</i> L.	ハルノノゲシ
<i>Youngia japonica</i> (L.) DC.	オニタビラコ
Monocotyledoneae	単子葉植物
Gramineae	イネ科
<i>Bambusa multiplex</i> (Lour.) Rauschel	ホウライチク
<i>Brachiria mutica</i> (Forsk.) Stapf	パラグラス
<i>Imperata cylindrica</i> Beauv.	
var. <i>major</i> (Nees) C. H. Hubbard et Vaughan	チガヤ
<i>Miscanthus sinensis</i> Anders.	ススキ
<i>Oplismenus compositus</i> (L.) Beauv.	エダウチヂミザサ
<i>Pleioblastus linearis</i> (Hack.) Nakai	リュウキュウチク
<i>Sporobolus fertilis</i> (steud.) W. D. Clayton	ネズミノオ
Cyperaceae	カヤツリグサ科
<i>Carex breviculmis</i> R. Br.	アオスゲ
<i>Carex brunnea</i> Thunb.	コゴメスゲ
<i>Carex sociata</i> Boott.	タシロスゲ
Palmae	ヤシ科

<i>Arenga tremula</i> (Blanco) Becc.		
var. <i>engleri</i> (Becc.) Hatusima		クロツグ
<i>Livistona chinensis</i> R. Br. var. <i>subglobosa</i> Becc.		ビロウ
	Araceae	サトイモ科
<i>Alocasia odora</i> (Roxb.) C. Koch		クワズイモ
	Liliaceae	ユリ科
<i>Lilium longiflorum</i> Thunb.		テッポウユリ
<i>Liriope tawadae</i> Ohwi		ヤブラン
<i>Smilax sebeana</i> Miq.		ハマサルトリイバラ
	Iridaceae	アヤメ科
<i>Gladiolus x gandavensis</i> van Houtte		グラジオラス
	Zingiberaceae	ショウガ科
<i>Alpinia speciosa</i> (Wendl.) K. Schum.		ゲットウ